

企業・団体の社会貢献活動として、「里海」づくりはいかがですか？

私たちの瀬戸内海は、かつて、昭和40年代の高度経済成長期には、生活排水や工場排水などによる水質の汚染が進み、生き物は減り、「瀕死の海」と呼ばれました。

今は、水質は改善されてきましたが、陸域から供給される窒素やリンなど栄養塩類の循環バランスの崩れによる赤潮の発生やノリの色落ち、海ごみ、人と海との関わりの希薄化など、依然として多くの課題があります。

香川県では、これらの課題を解決するため、「里海」づくりに取り組んでいます。

「里海」とは、『人が関わることにより、多くの恵みを受取る豊かな海』のことです。

豊かな海は、海だけでなく、海の生態系に大きな関連を持つ山や川、そして、私たちが生活する里(まち)も含めた「人」と「モノ」のつながりの中で作られます。



香川県では、里海づくりに関する相談窓口「里海コンシェルジュ」を環境管理課内に設置しています。下記まで、お気軽にお問い合わせください。

香川県 環境森林部 環境管理課 里海グループ

場所：香川県庁 東館2階（高松市番町四丁目1番10号）

来庁の際は、事前にご連絡ください。

TEL：087-832-3220 E-mail：kankyokanri@pref.kagawa.lg.jp

かがわの里海づくり

検索

かがわの「里海」づくりの
“先進的な活動事例”をご紹介します！

人が関わることで、かがわの海が抱える課題を解決していこうとする、かがわの「里海」づくりは、活動の場所、取組み内容など、とても多様です。

そして、多くの人や企業などが参加・協働して、海とふれあい、海に親しむ活動を行う、地域が主体となった取組みでもあります。

里海づくりを始めるための参考になればと、先進的な活動事例をご紹介します！



(父母ヶ浜)

**【活動事例①】 ちちぶの会 (香川県三豊市仁尾町)
絶景「父母ヶ浜(ちちぶがはま)」の美しさを守り25年、交流も広がる清掃活動とは？**

ボランティア団体「ちちぶの会」会員を中心とした海岸の清掃活動(毎月第1日曜 夏6時～、冬7時～)を行っています。

1996年、父母ヶ浜一帯の埋め立て計画に反対しようとする有志7人が会を設立。瀬戸内海でも数少ない白い砂浜の干潟を子どもたちのために後世に残しておきたい、美しい砂浜として、稚魚の育つ漁場として大切に守っていきたくて…という思いで、活動をスタートしました。

計画が中止になった現在も、10～80代の会員約70名が「ふるさとの浜は自分たちが守ろう」と活動を続けています。

毎月の海岸清掃のほか、観光案内や公民館・地元小学校と連携した自然観察会なども開催しています。

設立時からの中心メンバー、
鴨田さん、塩田さん、菅さん
にお話をうかがいました！
(2020.1.29)



(左から、菅さん、鴨田さん、塩田さん)



父母ヶ浜を清掃中

【活動のここがスゴい!!】

「長年の清掃活動が浜の美しさを保ち、インスタ映え絶景スポットとして大ブレイク」

◎きっかけは25年前、浜の埋め立て計画に反対!

「何でこんなキレイな浜を埋め立てるの？」

「自分たちにできることは？」

「このキレイな浜を、美しい景色をもっと皆に知ってほしい」

埋め立て計画に対する行動として、有志7人で「ちちぶの会」をつくり、「浜のごみ拾い」をスタート。



地元の中学生など若い参加者も増えています
※青いゴミ袋は関西化学工業(株)高瀬工場から無償提供していただいています

◎地道な活動が、海外にまで知られる絶景へ

2016年に撮影された父母ヶ浜の夕景が「インスタ映えする絶景」と話題になり、観光客が増加。長年、海岸の美しさを守ってきた同会の「志」に共感した仲間が増え、現在は会員約70名に。

【活動時の工夫】

◎海の生物・海浜植物の自然観察会も実施

海の生き物の生態を知り、自然の大切さを知ってもらい、環境保護の意識を高める機会として「自然観察会」を開催。海浜生物に詳しい会員が講師を担当し、年1回、地元の小学生が皆で楽しく学んでいます。

◎清掃活動に参加した皆の「思い」「志」が、活動継続の原動力

月1回の海岸清掃に参加するのは会員だけでなく、浜を愛する地元外の方も。自分たちの力で清掃することで「浜の美しさを守っている、よかったー!」という一人ひとりの思いが、活動が続くエネルギーになっています。

◎地域在住の会員、全国・世界の方々との交流の場

清掃活動の後は参加した皆でコーヒータム。会員同士の情報交換とコミュニティの場として、時には、浜の美しさを守りたい地元外の観光客の方も参加し、地元の会員と和やかに交流することもあります。

【これからの展望】

海洋汚染として環境への影響が懸念されるマイクロプラスチック(5mm以下の微小なプラスチック粒子)問題を大変心配しています。ここ仁尾町の浜から、問題の重大さを情報発信していきたいと考えています。

最近では、当会の清掃活動がさまざまな場でも取り上げられ、小さな町の話のひとつとなっているのが嬉しいです。三豊市の観光交流局のおかげで、父母ヶ浜の魅力が海外にまで知られるようになり、観光客や移住者も増えてにぎやかになってきました。観光客が早朝の清掃に参加してごみ拾いを手伝ってくれることもあるんですよ。

浜をきれいにしたい心は、自然環境を汚さない・ごみを出さない意識づくりにつながります。自分たちのような活動が、他の地域でも広がってくれるといいですね。



活動後の交流も楽しみの一つです

**【活動事例②】 三菱電機株式会社 受配電システム製作所 (香川県丸亀市)
離島の方々と信頼関係を築き、一緒につくりあげてきた環境保全・地域交流活動とは？**

三菱電機全社が社会貢献活動を推進しているなか、当製作所は2015年2月、高齢化と過疎化が進む丸亀市広島校区連合自治会と里山保全活動協定書を結び活動をスタート!

広島・手島を活動場所に、観光資源である王頭山の登山道入り口の整備や、海岸に打ちあげられた生活ごみを収集するなど環境保全活動に取り組むほか、災害ごみの撤去等、“地域が必要とする活動を行う”ことで、島民との親交も深めてきました。

活動には従業員だけでなく家族も参加。作業後には子ども野外教室を開催し、自然とともに遊ぶ楽しさを提供しています。これまで、竹の水鉄砲・弓矢・竹刺しの手づくりパン焼き、海岸で探した石や流木を使ったアートづくり、ペットボトル風車・砂時計などの教室を実施。

活動当初、広島・手島について参加者は、「行ったことはないけれど、会社から見える島だから関心がある」と、島への興味から参加していた人も、回を重ね、島の自然と地元の方と触れ合う過程で「島の環境保全活動に少しでも力になりたい!」という思いが強くなったそう。

5年間で延べ777名が参加、“地域の環境保全活動の継続的な活動の輪”が、ますます広がってきています。

業務部総務課 井澤友子さん
にお話をうかがいました!
(2020.1.29)



海岸清掃の様子



島のシンボルひまわり畑とともに毎年恒例の記念撮影

【活動のここがスゴい!!】「一過性に終わらない、継続的な活動である」なぜならば…

◎島民の方々とのコミュニケーション密度が高い

「また来てほしい」「また活動しに来たい」のお互いの思いが相乗効果となっている。

◎社員が家族で参加して、皆が楽しめる活動

夏休みの子どもたちには、自由研究のネタがいっぱい。離島への小旅行のような楽しさも。



島の方との交流が一番の思い出

◎会社内・社員同士の新たなコミュニケーションの場に

清掃活動やクラブづくりなどを通して、仕事だけではわからない社員の新たな一面を発見できる。

【活動時の工夫】

◎海を隔てて“互いに向き合って見る”共通点があった

工場から海の向こうに見える広島・手島。清掃活動のとき王頭山の山頂から眺めた海の先に自社工場が。

◎島民から直接、要望をきく

「島にもっと人がきてくれたらいいなあ」 → 社員の家族ぐるみの交流へ
「ここが手つかずで困っているよ」 → 文化財の清掃活動へ
「この畑を使ってみたら？」 → 畑に種をまき、水やりなどに住民の方の力も借りて、収穫したものを活動時の昼食に!

◎子どもも楽しんで参加できる

夏休みの宿題に役立つような「海ごみ調べ 自由研究ワークシート」の作成。

◎社内・外のチームワークが重要

活動メンバーが社内複数の部署にまたがるチームで運営。地元の方とのコミュニケーションが最重要。

【これからの展望】

海岸清掃をしていると、街から流れてくるごみの多さが目につきます。環境保全活動の一環として、海へごみを流さないために、自分たちが身近な生活でできることは何かを考えるようになりました。たとえば今後、地元の保育園などで出前講座を行い、環境保全について考えるきっかけをつくりたい。

これからも、三菱電機受配電システム製作所らしい、自分たちで組み立てていく手づくりの環境保全活動を進めたいです。